

第2章 岡山城と城下町の概要

1. 岡山城の概要

1) 略年譜

年	城主	出来事
元龜元年 (1570)	宇喜多直家	宇喜多直家、金光宗高を滅ぼし、岡山城を接收。
天正元年 (1573)		秋 直家、亀山城より岡山城に居城を移し、城下町経営に着手。
天正9年 (1581)		2月14日 直家、岡山城に没。翌年喪を発し、子の秀家跡を継ぐ。
天正19年 (1591)	宇喜多秀家	秀家、豊臣秀吉の指示により、本丸を石山から岡山へ移転し、大手門を付け替えるなど、城の大改修と城下町建設に着手。
慶長2年 (1597)		岡山城天守閣が竣工。城郭・城下町の形がほぼ整う。
慶長5年 (1600)	小早川秀秋	9月15日 関が原合戦。秀家は敗れて除封となり、替わって岡山には小早川秀秋が封ぜられる。
慶長6年 (1601)		春 秀秋、岡山城に入り、城の改築に着手、二十日堀と呼ばれる外堀を新たに築く。
慶長8年 (1603)	池田忠継	姫路城主池田輝政5男忠継、備前国を与えられるが、幼少のため代わって兄・利隆が岡山城に入り、藩政を代行。
元和元年 (1615)	池田忠雄	2月23日 忠継没、弟・忠雄が跡を継ぐ。以後、本丸の改築(中の段の拡張と櫓・門築造)や大手門改築等を行い、岡山城の形が完成する。
寛永9年 (1632)	池田光政	4月3日 忠雄没、嫡子光仲と鳥取城主の池田光政が入替わり、光仲が鳥取へ、光政が岡山へ転封。以後光政の子孫が岡山城主を継ぐ。
明暦元年 (1659)		2月 旧本丸に池田家祖廟を設ける。
寛文6年 (1666)		石山に藩士子弟の文武修練の場「仮学館」を設ける。
寛文12年 (1672)	池田綱政	6月11日 光政隠居し、西の丸に移る。嫡子綱政が跡を継ぐ。
元禄13年 (1700)		御後園完成
宝永4年 (1707)		10月 石山に円務院常住寺を創建。 御後園西門口から出石河原へ仮橋を架橋(現鶴見橋辺り)
正徳4年 (1714)	池田継政	10月29日 綱政没、12月 嫡子継政が跡を継ぐ。
宝暦2年 (1752)	池田宗政	12月6日 継政隠居、嫡子宗政が跡を継ぐ。
明和元年 (1764)	池田治政	3月10日 宗政没、5月10日 嫡子治政が跡を継ぐ。
寛政6年 (1794)	池田斉政	3月8日 治政隠居、嫡子斉政が跡を継ぐ。

文政 12 年 (1829)	池 田 齊 敏	2 月 7 日 齊政隠居、養子齊敏が跡を継ぐ。
天保 13 年 (1842)	池 田 慶 政	1 月 30 日 齊敏没、4 月 2 日 養子慶政が跡を継ぐ。
文久 3 年 (1863)	池 田 茂 政	2 月 8 日 慶政隠居、養子茂政が跡を継ぐ。
明治元年 (1868)	池 田 章 政	3 月 15 日 茂政隠居、養子章政が跡を継ぐ。
明治 2 年 (1869)		6 月 17 日 版籍奉還。章政は岡山藩知事に任命され、岡山城二の丸以内は兵部省 (のち陸軍省) の管轄となる。
明治 4 年 (1871)		2 月 6 日 御後園の名称を「後樂園」と改める。 2 月 16 日 後樂園を一般に公開する。
明治 5 年 (1872)		石山から円務院常住寺が移転し、上石井の長延寺と合併。
明治 8 年 (1875)		5 月下旬 外堀の埋め立てに着手。9 月上旬完工。以後、中堀、内堀の埋め立ても進む。
明治 15 年 (1882)		3 月 天守・月見櫓、西手櫓、石山門を除き、櫓や城門を破却。
明治 17 年 (1884)		3 月 2 日 後樂園が旧藩主池田家から岡山県へ譲渡される。
明治 23 年 (1890)		2 月 21 日 岡山城二の丸内屋敷郭以内が池田家へ払い下げられる。池田家は旧対面所へ別邸を置き、その他の二の丸は以後暫時学校用地、民地としての利用が進む。 8 月 21 日 国清寺から西の丸に高等岡山小学校を移設 (のち内山下尋常高等小学校)。
明治 29 年 (1896)		11 月 21 日 本丸に岡山中学校移転 (のち岡山朝日高)。所有は池田家のまま。
明治 40 年 (1907)		池田家、旧本丸に閑谷神社遥拝所を置く。
大正 11 年 (1922)		3 月 8 日 後樂園、国の名勝に指定される。
昭和 2 年 (1927)		池田家、旧本丸の閑谷神社遥拝所を廃し、その後に東京本邸から祖廟を移転。
昭和 6 年 (1931)		1 月 19 日 天守閣、国宝 (旧国宝) に指定される。
昭和 7 年 (1932)		6 月 内山下尋常高等小学校 (のち内山下国民学校→内山下小学校) の校舎改築のため、西の丸に残っていた光政閑居の居間の建物を破却。
昭和 8 年 (1933)		1 月 23 日 月見櫓、石山門、西手櫓、国宝 (旧国宝) に指定される。
昭和 20 年 (1945)		6 月 29 日 米空軍の空襲により、天守閣、石山門、後樂園内の主要亭舎を焼失。
昭和 23 年 (1948)		5 月 池田家、内堀を除く本丸の旧岡山一中用地を岡山市へ売却。
昭和 25 年 (1950)		8 月 29 日 文化財保護法施行により、月見櫓、西手櫓は国指定重要文化財となる。
昭和 27 年 (1952)		11 月 22 日 後樂園、国特別名勝に指定される。

昭和 28 年 (1953)	マッカーサー杯岡山大会軟式庭球大会会場として、本丸下の段に軟式テニスコート完成。 9 月 本丸から岡山朝日高校が国富の第六高等学校跡地へ移転、以後本丸は「烏城公園」として公園化。 内堀が太陽殖産株式会社（林原グループ）の所有となる。
昭和 29 年 (1954)	4 月 1 日～5 月 15 日 烏城公園を主要会場に岡山市主催「岡山産業文化博覧会」が開催され、このとき本丸中の段に博覧会展示施設として岡山市立科学博物館（のち烏城公園無料休憩所）を建設。 7 月 岡山城～後楽園間の旭川に月見橋を架橋。 9 月 石山に榊原病院が移転開院。
昭和 36 年 (1961)	石山にNHK岡山放送局が移転開局。 11 月 後楽園の延養亭再建。
昭和 37 年 (1962)	5 月 1 日 石山の市立図書館跡地に山陽放送会館落成。
昭和 38 年 (1963)	3 月 石山に岡山市民会館開館。
昭和 39 年 (1964)	10 月 1 日 旧対面所の池田邸跡に岡山美術館（のち林原美術館）開館。
昭和 41 年 (1966)	11 月 天守閣、不明門、廊下門（以上鉄筋コンクリート造）、六十一雁木上門（木造）再建。
昭和 58 年 (1983)	1 月 内堀が林原グループから岡山市へ寄贈される。 池田家、旧本丸の祖廟を移転し、用地を榊原病院へ売却。
昭和 62 年 (1987)	5 月 30 日 本丸・旧本丸・後楽園区域が国史跡「岡山城跡」に指定される。
平成 4 年 (1992)	「岡山城跡保存管理計画（原案）」を作成、城跡の発掘調査・保存整備事業に着手。
平成 9 年 (1997)	「史跡岡山城跡保存整備計画（第Ⅱ期）」策定。
平成 11 年 (1999)	3 月 市立丸の内中学校が閉校 本丸中の段の石垣復元修理に着手（～平 17）。
平成 13 年 (2001)	西の丸の内山下小学校閉校。後楽館中高一貫校内山下校舎となる。
平成 14 年 (2002)	本丸中の段の整備事業に着手。
平成 16 年 (2004)	9 月 丸の内中学校跡地に岡山県立図書館開館
平成 17 年 (2005)	8 月 27 日 NHK岡山放送局が石山から駅元町へ移転。跡地は市が買収。 本丸下の段のテニスコート撤去。
平成 19 年 (2007)	2 月 6 日 外下馬門跡石垣及び近辺石垣等を国史跡に追加指定。 本丸中の段の整備事業が完成。
平成 24 年 (2012)	3 月 旧内山下小学校跡地から後楽館中高一貫校が南方の新校地へ移転。 9 月 18 日 石山から榊原病院が中井町へ移転。

2) 構造

岡山城は、岡山・石山・天神山(天満山)の3丘陵を中心に、周囲の平野を取り入れて城郭を形成している平山城である。その縄張は、城の中心たる本丸を岡山に置き、その西方向のみに他の郭が配置された梯郭式と呼ばれる縄張り^{ていかく}で、本丸の北～東には、本丸を守るべきほかの郭が全く存在せず、この方向の防備が非常に弱い構造をしている。旭川が本丸を囲むように蛇行しているのは、この防備の薄さを補完するために宇喜多秀家が流路を変更し、天然の堀としたためである。これと同様に、池田綱政が築庭した後樂園も、本丸の北・東方向を囲むように築かれており、本丸を守る郭の役割を果たしているという説もある。本丸の西に二の丸内屋敷、その南に二の丸が置かれ、その西側に三之曲輪が置かれ、さらにそれを取り巻くように外側に三之曲輪の内・三之外曲輪が設けられ、外堀(二十日堀)が穿たれた。

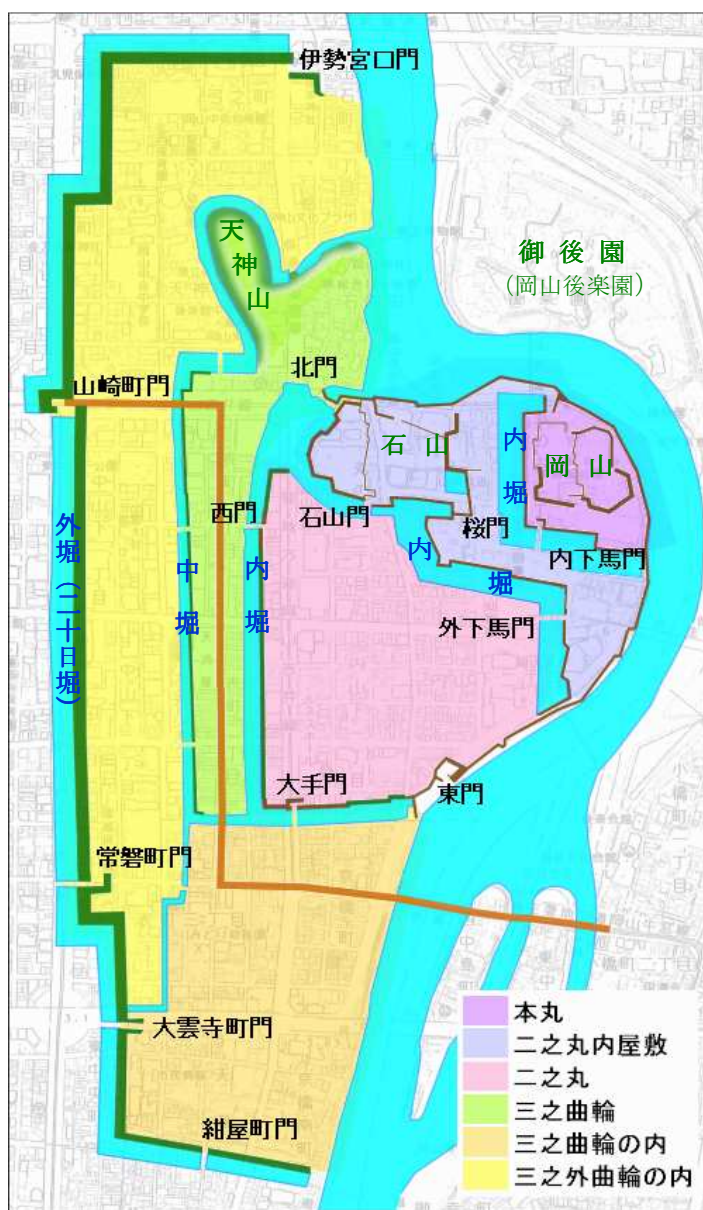


図 資 2-1 岡山城の曲輪構造

(1) 本丸

岡山城の中核である本丸は、北～東面が旭川に、西～南面が内堀に面していた。高い順に本段、中の段、下の段の3つの段から成る。

①本段

最も高い本段は宇喜多時代にほぼ全体が完成し、北端に天守閣・中央に御殿を有している。御殿は、藩主の私邸として使用されていたため、一般の藩士の出入りが厳しく禁止され、本段と中の段を隔てる不明門は、その名の通り常時閉鎖されていた。御殿は南端に玄

関、ついで台所が設けられ、その奥に藩主の部屋と女中の部屋が、そして最も奥に側室の部屋があった。

②中の段

本段よりやや低い中の段は、御殿が大部分を占める。宇喜多秀家の代に一部が築かれ、小早川秀秋の代に南部分、池田忠雄の代に北部分が大幅に拡張され、現在の形になった。この経緯を反映して、郭の北部と南部で石垣の積み方に相違が見られ、また、櫓の意匠も異なっていた。御殿は、藩主の公邸兼藩政の中心となる藩庁で、城内最大の、そして最高の格式を有する御殿であった。南に玄関を設け、それから北に広間・書院が続き、その奥に、藩主公邸である中奥と台所が建ち並んでいた。



本段御殿(上)と中の段御殿(表書院)模型
(岡山シティミュージアム蔵)

③下の段

本段・中の段を囲む下の段は、内堀沿いが宇喜多時代、旭川沿いは池田時代に築かれ、搦手門（裏口）である馬場口門内に花畠御殿が置かれたほかは、土蔵や金庫、春屋（つきや：穀物の精製所）などに使用されていた。大手門方向（南）に面した内堀沿いには多くの三層櫓が建ち並び、本丸の正面口にふさわしい堂々たる景観を誇っていた。花畠御殿は池田忠雄が築造した御殿で、公的な意味合いを持ったものではなく、藩主の休養の場であり、本丸の他の2御殿に比べ、小規模なものであった。

(2) 二の丸内屋敷

本丸を西から南に囲む二の丸内屋敷は大きく西の郭と東南の郭に分かれ、現在の林原美術館の北東角辺りにあった桜門がその境となっていた。

①西の郭

西の郭は石山と呼ばれていた丘陵にあり、最も高い所は宇喜多直家時代の城の本丸があった場所ではないかと考えられている。伝旧本丸には池田光政の代に池田家の祖先を祀る廟所が置かれ、廟所と本丸内堀の間には馬場が設けられ、桜の馬場と称された。廟所の西の一段低い場所には、はじめ重臣土倉氏の屋敷があったが、のち光政の娘の屋敷、次いで綱政の代になって祈祷所である常住寺円務院が置かれた。その西側には西の丸があり、はじめ重臣土倉氏の屋敷地であったが、光政が隠居してのち、藩主隠居所となる屋敷が置かれた。西の丸の北に北門があって町人地である石関町へ、南には石山門があって二の丸へ通じていた。

②東南の郭

東南の郭には、西端に池田利隆が弟忠継に代わって藩政を執っていた頃に大名との対面所となる屋敷が置かれていたが、のち藩主家族の屋敷となった。内堀と旭川に面した東端には、小早川秀秋の代から一貫して家臣団で最高クラスの禄高を有する重臣の屋敷が置かれ、池田光政の代以降は、筆頭家老の伊木氏の屋敷地となり、その領地名をとって虫明屋敷と呼ばれていた。

(3) 二の丸

二の丸は2段目の内堀を隔てて二の丸内屋敷郭の南に接し、石山門・外下馬門を経て二の丸内屋敷郭に、西門・東門と最南端に設けられた大手門を経て三の丸に至る。重臣の屋敷が置かれ、池田・土倉・日置家など、万石以上を有する家老の屋敷は外下馬門や大手門近くに配置されていた。大手門は創建時には渡櫓門のみによる構成であったが、池田忠雄の代に高麗門・渡櫓門から成る枡形門に改修された。

(4) 三之曲輪

内堀と中堀に囲まれた郭で、北端の天神山に藩主池田家の分家である鴨方池田家屋敷や



図 資 2-2 岡山城主要部の曲輪構成 …… 国史跡指定範囲

郡部を治める役所である郡会所、酒折宮が置かれた以外は、ほとんど町人地であり、ここが領国経済の中心たる役割を担っていた。中央を山陽道が縦断し、南の三之曲輪の内との間に架けられた仙阿弥橋が諸往来の起点になっていた。ここまでの郭が宇喜多時代の築造とされる。

(5) 三之曲輪の内

大手門を経て二の丸と、仙阿弥橋を経て三之曲輪と、京橋を経て旭東とつながり、西端の大雲寺町門及び南端の紺屋町門が郭外へ通じていた。北半分の町人地が宇喜多時代に、南半分の武家地が小早川時代に築かれた。町人地内を山陽道が通り、京橋の西詰の山陽道上には京橋御門が設けられていた。

(6) 三之外曲輪の内

小早川時代に築かれ、同時に城郭の北・西・南端をぐるりと囲む外堀（二十日堀）が築かれた。この外堀は家臣まで総動員してわずか20日で築かれたため「二十日堀」の異名を取った。北東部の津山往来沿いに町人地が設けられた以外は全て武家地であった。伊勢宮口門・山崎町門・常磐町門が設けられ、これらの門を経て津山往来・山陽道・鴨方往来・庭瀬往来などの往来が領内外各地へと通じていた。

3) 岡山城の特色

(1) 近世城郭の魁

今に残る全国の近世城郭の跡は、その多くが慶長5年（1600）の関が原合戦後に築かれているが、岡山城は関が原合戦前に整備がほぼ完成した城で、広島城と並ぶ近世城郭の魁的な存在であり、日本100名城（2006年財団法人日本城郭協会選定）にも選定されている。構造にも古式な特色が窺え、例えば本丸本段の石垣は直角の角がなく、鈍角に折れ曲がるか細かく折れ曲がった屏風折の角を多用しており、また広さの割に櫓が2棟と少なく、豊臣秀吉が築いた大坂城本丸によく似た特徴が見られる。さらに、石垣の積み方も、自然石をそのまま積む「野面積み」という最も古い工法が採られている。

(2) 石垣築造技術史の博物館

一方本段と異なり、隣り合う中の段には直角に曲がる石垣上に多数の櫓が配置されており、関ヶ原合戦後に築かれた多くの城で採用されている形式が見られる。これは宇喜多秀家による築城後、小早川・池田と城主が替わるたびに大幅な改造を繰り返した歴史の反映である。このため本丸を形作る石垣は、同じ本丸郭内でありながら、改造時期により石の積み方に大きな違いが見られ、宇喜多期は最も古い「野面積み」、小早川期は進歩した「打ち込み接」、池田期は最新の「切り込み接」と、日本の城郭石垣築造技術の進歩の歴史を一

箇所で見ることが出来る。

(3) 天守閣の特色

宇喜多秀家が築いた岡山城天守閣は、慶長2年(1597)頃の竣工と言われているが、この頃に築造され、後世に伝えられた天守閣は少なく、またその中でも岡山城は最も古式な様式を伝える天守閣である。

岡山城天守閣は、大入母屋造りの基部に、高樓を重ねた、「望楼型」と呼ばれる様式をしている。この様式は、犬山城・丸岡城など初期の天守によく見られる。外観を見ると、外壁に黒塗りの下見板を張っているため全体的に黒色が目立ち、それに金箔瓦が彩を添えていた。「烏城」「金烏城」という異称はこれに由来する。この下見板も、豊臣秀吉の大坂城はじめ、初期の天守によく用いられた手法である。

このほかにも、「何層何階」という構造が一見して分かりづらいこと、南北と東西の幅が極端に異なること、1階と最上階である6階の面積が大きく異なり、1階から6階まで、各階平面の形状・面積が全て異なっていること、天守内に「城主の間」と呼ばれる書院造の居間が設けられていること、天守台が五角形であることなど、他の天守閣に見られない特徴は数多い。なかでも五角形の天守台は全国唯一のものであり、四角形以外の天守台も、岡山城の他には織田信長が築いた安土城の八角形天守台以外にはその例が見当たらない。

また、岡山城天守閣は明治の破却を免れ、昭和まで存続した全国20の天守閣のひとつで、惜しくも戦災で焼失したが、焼失前に撮影された数多くの写真や、実測図が残されているため、往時の天守の姿を正確に復元できることも大きな特徴のひとつといえるだろう。

表 資 2-1 昭和期（戦前）まで残った天守閣

戦災で焼失(昭20)	水戸城、名古屋城、大垣城、和歌山城、 岡山城 、福山城、広島城
失火で焼失(昭24)	松前城
現存 (<u>下線</u> は国宝)	弘前城、 <u>松本城</u> 、丸岡城、 <u>犬山城</u> 、 <u>彦根城</u> 、 <u>姫路城</u> 、松江城 備中松山城、丸亀城、松山城、宇和島城、高知城

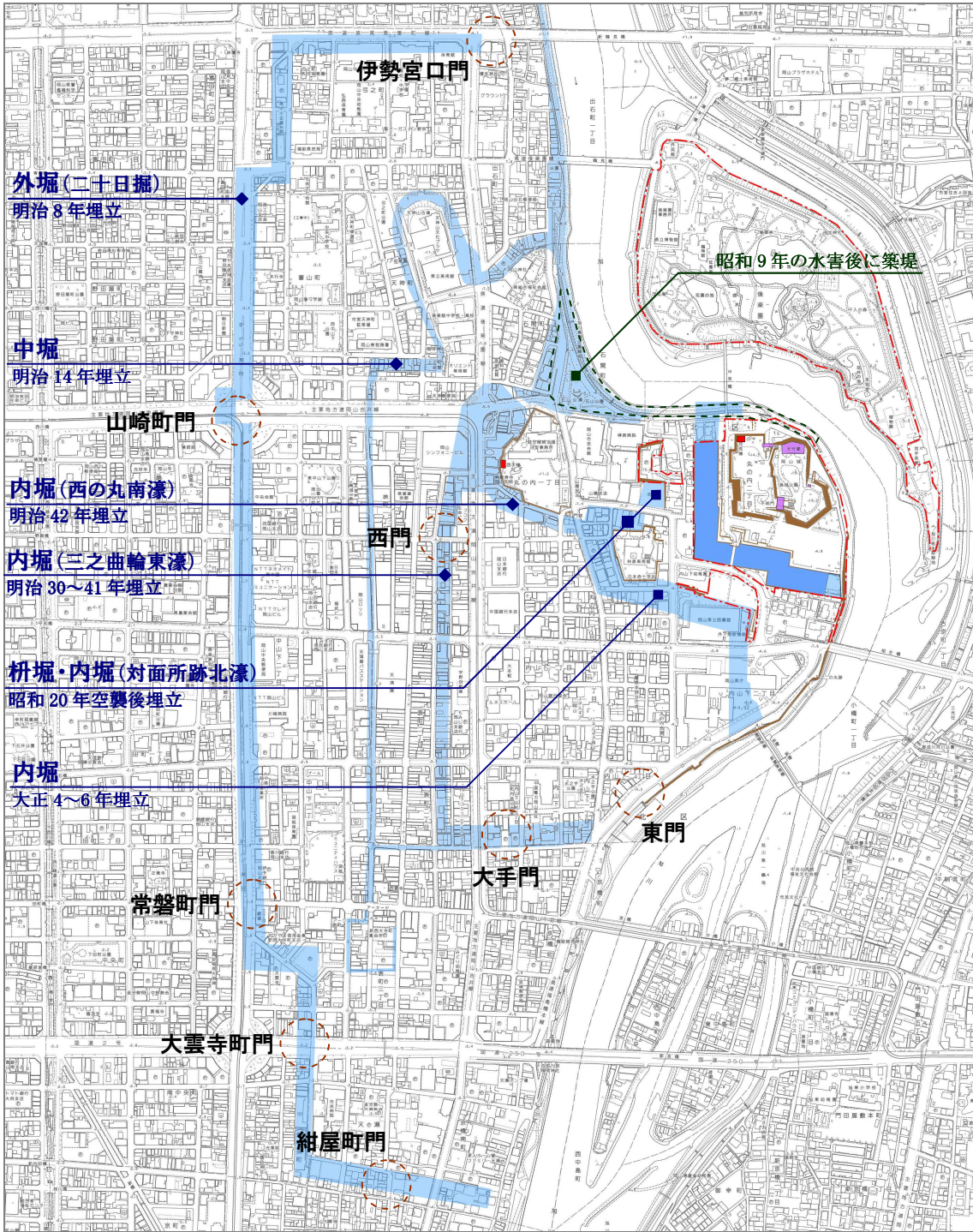


図 資 2-3 城郭の状況

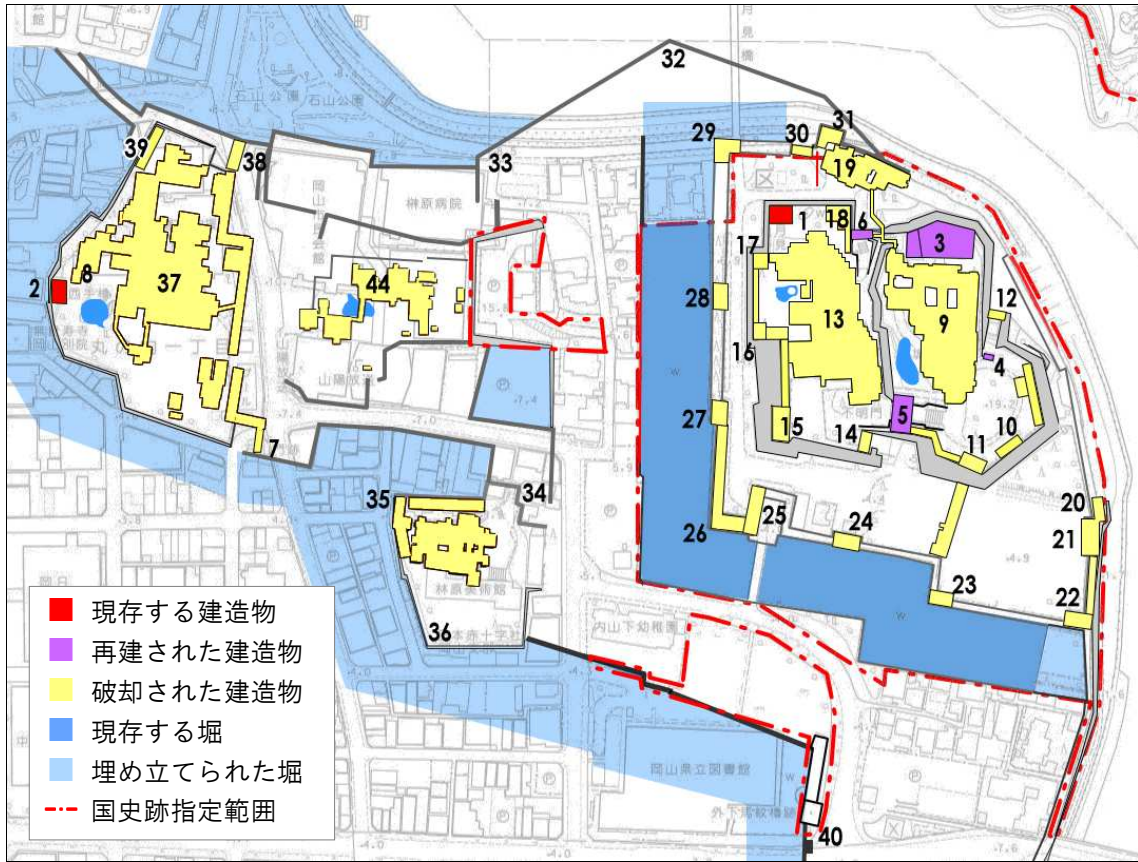


図 資 2-4 建造物の状況 (表 資 2-2 の番号と対応)

表 資 2-2 建造物の状況

現存建造物			
本丸 (中の段)	1. 月見櫓	国指定重要文化財	
二の丸 (西の丸)	2. 西手櫓	国指定重要文化財	
再建建造物			
本丸 (本段)	3. 天守閣・塩蔵	鉄筋コンクリート造の外観復元	
	4. 六十一雁木上門	木造復元	
	5. 不明門	鉄筋コンクリート造の外観復元	
本丸 (中の段)	6. 廊下門	鉄筋コンクリート造の外観復元	
戦災焼失建造物			
本丸 (本段)	3. 天守閣・塩蔵		
二の丸 (西の丸)	7. 石山門	富山城大手門の移築と伝わる。別名渋蔵門。	
昭和期破却建造物			
二の丸 (西の丸)	8. 西の丸御殿 (一部)	内山下小学校校舎建替えに伴い破却	
明治期破却建造物			
本丸	本段	9. 本段御殿	藩主と家族の住居

		10. 干飯櫓	
		11. 三階櫓	3層櫓
		12. 六十一雁木下門	
	中の段	13. 表書院	藩政の中心となる政庁。
		14. 鉄門	
		15. 大納戸櫓	3層櫓。城中最大の櫓で沼城天守閣の移築と伝わる。
		16. 伊部櫓	
		17. 数寄方櫓	
		18. 小納戸櫓	
	下の段	19. 花畑御殿	藩主の休息の場
		20. 弓櫓	
		21. 鍵櫓	
		22. 旗櫓	3層櫓
		23. 穴栗櫓	3層櫓
24. 春屋櫓			
25. 内下馬門		本丸の正門。	
26. 太鼓櫓		3層櫓	
27. 修覆櫓			
28. 油櫓			
29. 隅櫓			
	30. 馬場口門	本丸の搦手門。	
	31. 花畑隅櫓	藩主の休憩所。	
二の丸内 屋敷	桜馬場	32. 小作事請旗櫓	
		33. 小作事請西櫓	
	対面所	34. 桜門	門内に桜樹あり。乗馬の登城者はここで下馬する。
		35. 対面所西北隅櫓	
		36. 対面所西南隅櫓	
	西の丸	37. 西の丸御殿	藩主の隠居所。明治期に光政閑居の間を残し破却。
		38. 北門	
		39. 西の丸西北隅櫓	
東南郭	40. 外下馬門	別名外目安門。乗馬の登城者はここで下馬する。	
移築建造物			
石山	44. 常住寺円務院	数度の移築を経て、現在は本堂が東山に現存	

2 城下町の概要

1) 城下町の成り立ちと構造

宇喜多直家による岡山開府以前には、旧城下町エリアに相当する地には、町らしい家並みはなく、小規模な要塞であった岡山城周囲に家臣の居宅があった程度であったと推測される。直家は岡山に居城を移したのち、邑久郡福岡から豪商・阿部善定を呼び寄せ、東中島一帯を与えて城下町整備に着手はしたが、その後も合戦に明け暮れ、在城期間も短かったため、ついに本格的な城下町整備には至らず仕舞いであった。

直家の後を継いだ秀家は城の大改修とともに城下町建設を推し進め、今日まで続く城下町・岡山の基盤を築き上げた。直家と同様に領内の西大寺・福岡・伊部・片上などから有力商人を呼び寄せて、二の丸の外側に設けた三之曲輪へ住まわせて町人町を形成し、領内経済活動の中心とした。これが今も市内はもとより県下最大の繁華街たる表町商店街の始まりである。町名は住んでいる商人の出身地名や職人の職種からとって付けられることが多く、例えば表町一丁目～二丁目辺は福岡から出た商人が集まっていたため福岡町と呼ばれていたが、後に福岡上之町、福岡中之町、福岡下之町に分かれ、次第に「福岡」が取れて上之町、中之町、下之町と呼ばれるようになったとの説もある。この他、商人出身地名の町名としては西大寺町、片上町や児島町が、職種名の町名としては、博労町（のち丸亀町）、磨屋町や大工町などがあり、戦後の住居表示の実施により多くの町名が消えてしまったが、現在までその名をとどめているものもある。

秀家はまた交通路の整備にも力を注いだ。山陽道は、城のはるか北方の藤井一古都一国府市場一三野の渡し一笹が瀬一辛川を通過していたルートを、直家の代に城のすぐ南を通るように変更されていたが、秀家はこれをさらに付け替え、旭川へ新たに架橋した小橋・中橋・京橋を通り、三之曲輪の町人町を縦貫して西へ万成峠を越えるように改めた。旭川への架橋によって東西交通は円滑になり、同時に川東へ城下町が拡大していくことにもつながった。

小早川秀秋の代には外堀（二十日堀）が設けられ、堀の外側に沿って蓮昌寺をはじめとする寺院が集められたが、これは有事の際の城の防禦を考慮したものと考えられている。池田忠雄の代には外堀の外側、すなわち郭外の開発が進められ、番町や田町が形成されて武家屋敷となった。これにより、現在の旭川と西川に挟まれた地域を中心とする、南北に非常に細長い形状をした城下町がほぼ完成し、これ以降、池田光政入封後には大規模な拡張や変更はなく、明治を迎えることになる。将軍家のお膝元・江戸は俗に八百八町と呼ばれ、人口 100 万人を抱えていたが、岡山城下町は武家町 49 町・町人町 62 町で、人口は宝永 4 年（1707）の史料によると武家約 23,000 人、町人約 30,000 人であった。

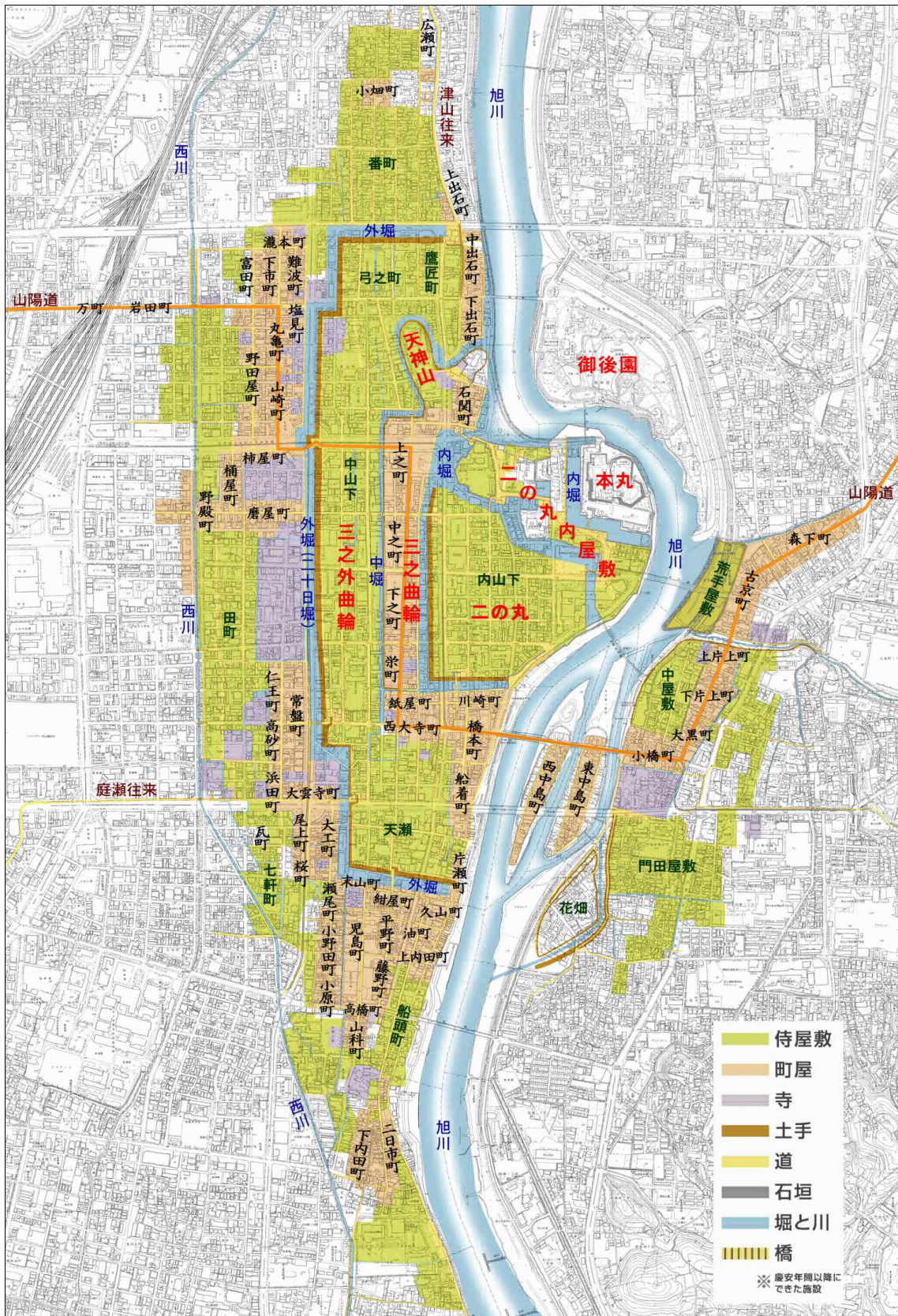


図 資 2-5 岡山城下町と現在の市街地重ね図 (岡山シティミュージアム制作)

表 資 2-3 岡山城下 62 町

名称		現在の町名	備考	
旭西				
1	橋本町	京橋町		内町
2	船着町	京橋町・京橋南町		内町
3	川崎町	京橋町		内町
4	西大寺町	表町三		内町
5	紙屋町	京橋町・表町三	古名：郡町 大手門前の町	内町
6	栄 町	表町二	古名：千阿弥町 町会所、鐘撞堂	内町
7	下之町	表町二	古名：恵比須町	内町
8	中之町	表町一	中之町御門があった	内町
9	上之町	表町一	古名：福岡町	内町
10	石関町	石関町	町内に岡山神社	中町
11	小畑町	番町二	町内に伊勢神社	外町
12	広瀬町	広瀬町	広瀬の市の旧跡	外町
13	難波町	富田町二	古名：五右衛門町	外町
14	塩見町	富田町二		外町
15	瀧本町	富田町二	古名：新右衛門町	外町
16	下市町	富田町二	一・六の市の旧跡	外町
17	丸亀町	富田町二・野田屋町二	古名：博労町	外町
18	山崎町	野田屋町一・二		中町
19	柿屋町	磨屋町		外町
20	野田屋町	野田屋町一・二	一時上出石村を移す	外町
21	富田町	富田町一・二	古名：惣二郎町	外町
22	岩田町	岩田町	延宝 4 年町を開く	外町
23	万 町	奉還町一	現在は大部分鉄道敷地	外町
24	桶屋町	平和町	桶職の集まった町	外町
25	磨屋町	磨屋町・平和町	外堀西側の寺町	外町
26	野殿町	平和町		外町
27	仁王町	田町一	町内に蓮昌寺	外町
28	高砂町	中央町	古名：又一郎町	外町
29	浜田町	中央町	古名：六兵衛町	外町
30	瓦 町	中央町・南中央町	瓦師の集まった町	外町

31	常盤町	田町二	古名：仏師町	外町
32	尾上町	南中央町	古名：二郎三郎町	外町
33	桜 町	南中央町	古名：新右衛門町	外町
34	大雲寺町	表町三	町内に日限地藏	外町
35	大工町	東中央町	大工職の集まった町	外町
36	瀬尾町	清輝本町	古名：弥右衛門町	外町
37	小野田町	清輝本町	古名：七郎衛門町	外町
38	小原町	清輝本町	古名：又兵衛町	外町
39	末山町	天瀬	紺屋町に合併	外町
40	児島町	天瀬南町		内町
41	高橋町	天瀬南町	古名：意三町	外町
42	山科町	山科町	古名：三郎兵衛町	外町
43	紺屋町	天瀬南町	染物職が集まった町	外町
44	平野町	天瀬南町	古名：喜右衛門町	外町
45	藤野町	天瀬南町	古名：すくも町	外町
46	久山町	舟橋町	久山五郎兵衛の開町	中町
47	油 町	舟橋町・天瀬南町	油商人が集まった町	中町
48	上内田町	舟橋町		外町
49	下内田町	下内田町		外町
50	二日市町	二日市町	二・七日市の旧跡	外町
51	片瀬町	舟橋町	古名：天瀬片瀬町	中町
52	下出石町	出石町一	天正の開町	外町
53	中出石町	出石町一	天正の開町	外町
54	上出石町	出石町二	寛永～正保の開町	外町
旭東				
55	小橋町	小橋町一	文禄年間に町となる	中町
56	大黒町	中納言町	古名：すくも町	外町
57	下片上町	中納言町	古名：伊部町	内町
58	上片上町	中納言町	天正の開町	内町
59	古京町	古京町一	古名：京町	外町
60	森下町	森下町	総門・会所があった	外町
61	西中島町	西中島町	文禄年間の開発	外町
62	東中島町	東中島町	文禄年間の開発	外町

2) 旧城下町エリア内の文化財

旧城下町エリア内に所在する国・県・市の指定等文化財（岡山城関連を除く）は下表のとおりである。

表 資 2-4 旧城下町エリア内の国指定史跡

名称 [所在地]	所在地	指定日	概要
1 旧岡山藩藩学	北区蕃山町	T11. 3. 8	岡山藩主池田光政が寛文9 (1699)年に設けた藩士子弟の藩校。講堂・校門・正門が遺存していたが、戦災で焼失。泮池現存。

表 資 2-5 旧城下町エリア内の岡山県指定文化財

名称 [所在地]	所在地	指定日	概要
2 玉井宮東照宮本殿 附玉垣	中区東山	H12. 3. 28	正保元年(1644)に落成、翌年に遷宮。桁行三間、梁間二間、銅板葺の入母屋造。内部は板扉を設けて2分し、さらに内陣は扉で2分しているが、内陣内の扉は後世に付加されたものである。この建物は軒が極めて大きく前へ出ていることに特徴があり、特に向拝部分が顕著である。内部、外部とも彩色を施している。

表 資 2-6 旧城下町エリア内の岡山市指定文化財

名称 [所在地]	所在地	指定日	概要
3 岡山神社随神門	北区石関町 2-33	H16. 2. 24	随神門は池田文庫に残る『酒折宮社記』によると、岡山城主池田継政が延享二年(1745)に造立した三間一戸の八脚門で切妻造、本瓦葺である。

表 資 2-7 旧城下町エリア内の国登録有形文化財

名称 [所在地]	所在地	指定日	概要
4 岡山禁酒会館	北区丸の内	H14. 6. 25	木造3階建てで、寄棟造・スレート葺（一部鉄板葺）の屋根は3階部分で腰折れ風に処理する。ドイツ壁風と白タイル張を組み合わせ垂直性を強調した正面の意匠と相俟って、市街地の歴史的景観の象徴となっている。
5 岡山市の水道施設京橋水管橋	北区京橋町から中区西中島町	H17. 2. 9	旭川に架かる斜橋式水管橋。鉸接平鋼と山形鋼を使い分けた、最大スパン33mの5連ワーレントラス橋で、水道用鋼製橋として最初期のもの。橋脚は五角形平面のコンクリート造で、帯鉄で締め、隅部を鉄板で保護する珍しい構造。
6 おかやま旧日銀ホール（旧日本銀行岡山支店本館）	北区内山下	H17. 12. 26	外装に花崗岩を用いた煉瓦造及び石造建造物で、小屋組は鉄骨トラスとする。正面中央にコリント式オーダーと三角ペディメントをあしらうなど古典主義様式の格調高いデザインが特徴的。
7 旧京橋火の見櫓	北区京橋町	H18. 3. 27	高さ21mの鉄骨造の警鐘台。山形鋼を四脚に立てて横材を渡し、横材間をリング式ターンバックルで補強する。最上部には正方形の望楼を載せ、鉄板製宝形屋根をかける。岡山市街の東方、

3) 旧城下町エリア内の歴史・文化資産

(1) 神社・寺院

旧城下町エリア内にある神社・寺院で、岡山城史（昭和 58 年 岡山城史編纂委員会）に記載されているものは以下のとおり。

表 資 2-8 旧城下町エリア内の神社

名称		藩政期の所在地	現在地	概要
1	岡山神社	石関町	石関町	のちの城本丸の位置にあったが、城改修に伴い移転。旧称酒折宮。随神門は空襲を免れ、市重要文化財に指定。
2	伊勢神社	小畑町	番町	旧城下唯一の式内社。社殿は宝永の火災以降の建築。
3	稻荷神社	上之町	天神町	「甚九郎稻荷」の名で知られる。空襲で全焼。
4	恵美須宮	南方村	広瀬町	江戸時代の社殿が今も残る。
5	金刀比羅神社	丸亀町	富田町 2	宇喜多秀家が祈願所としていた。空襲で全焼。
6	玉井宮東照宮	東山	東山 1	江戸時代まで別々の神社を明治になって合祀。権現祭は城下町最大の祭礼であった。社殿は正保年間の建築で、空襲を免れ県重要文化財に指定。
7	榎本神社	弓之町	弓之町	きまった氏子をもたない小社だが、城下町以前から存在。

表 資 2-9 旧城下町エリア内の寺院

名称（宗派）		藩政期の所在地	現在地	概要
8	妙応寺（日蓮宗）	難波町	富田町二	城下町開府以前からの寺院。空襲を免れた山門・番神堂が残る。
9	妙福寺（日蓮宗）	小原町	清輝橋一	池田光政の鳥取から岡山への国替えに従って来た寺院の一つ。空襲で全焼。
10	瑞雲寺（日蓮宗）	三番町	番町一	本堂は江戸時代中期の建築。小早川秀秋の墓所があることで知られ、寺院名も秀秋の戒名にちなむ。
11	本行寺（日蓮宗）	山崎町	蕃山町（移転）	戦後区画整理のため現在地に移転。山門だけは空襲を免れた文化年間建築のものを移築。
12	蓮昌寺（日蓮宗）	田町	田町一	城下最大の寺院で、戦前まで 14,000 m ² の寺域を有する大伽藍を保持していたが、空襲で全焼。戦後大幅に縮小された。
13	妙勝寺（日蓮宗）	二日市	船頭町	日蓮宗不受不施派の禁令により一時衰微。空襲で全焼、戦後の再建。
14	国清寺（臨済宗）	小橋町	小橋町	藩主池田家の菩提寺。戦前は大伽藍を誇るが、空襲で6棟を残し焼失。新京橋の架橋で寺域も縮小された。
15	三友寺（臨済宗）	門田屋敷	門田屋敷	池田光政の鳥取から岡山への国替えに従って来た寺院の一つ。空襲で山門を残し焼失。
16	蔭涼寺（臨済宗）	瓦町	中央町	空襲で全焼。戦後別の寺から本堂の、国清寺から山門の譲渡を受け再興。
17	景福寺（曹洞宗）	瓦町	中央町	鳥取池田家の重臣荒尾氏の菩提寺として創始。空襲で全焼。
18	岡山寺（天台宗）	磨屋町	磨屋町	創始は8世紀で、岡山城下最古の寺院。もと城本丸辺にあったが、城郭拡張により移転。もとは光珍寺と一寺院であったが、争論があつて分裂。空襲で全

				焼。
19	光珍寺 (天台宗)	磨屋町	磨屋町	寺院名は宇喜多興家の戒名にちなむ。もと岡山寺と一体であったが争論により分裂。宇喜多直家の木像を所蔵していたことで知られる。空襲で直家木像とも全焼。
20	常住寺 (天台宗)	二の丸内屋敷	門田本町	岡山城内二の丸内屋敷郭(石山)に唯一存在した寺院で、明治以降に移転を重ねて現在地に移る。宝永5年竣工の本堂が移築されて今も残る。
21	薬師院 (真言宗)	磨屋町	磨屋町	城下真言寺院中第一の伽藍を有していたが空襲で全焼。本尊のみは避難して事なきを得た。戦後寺域は大幅に縮小。
22	金剛寺 (真言宗)	磨屋町	磨屋町	もと薬師院の寺中であったが明治になって独立。空襲で全焼するも、本尊のみ避難。
23	正覚寺 (浄土宗)	田町	田町二	空襲で全焼。戦後町内の超勝寺を合併。
24	大雲寺 (浄土宗)	大雲寺町	表町三	日限り地蔵として信仰を集め、現在でも毎月23日に縁日が開かれる。空襲で全焼するが、地蔵尊のみ焼け残った。
25	西寶寺 (真宗)	西大寺町	表町三	岡山開府以前からある古寺。空襲で全焼。
26	光清寺 (真宗)	小原町	清輝橋一	はじめ栄町にあり、のち小原町に移転。空襲で全焼。

表 資 2-10 城下町地名由来碑

名称		現在の町名	由来碑説明文
1	小畑町	番町二	延喜式に記された伊勢神社を中心にしたまちで、古くは伊勢宮町と呼ばれました。延宝四年(1676)小畑町と改められました。伊勢神宮の近くの小俣町の名にちなんだともいわれます。
2	勘解由橋跡	南方一	江戸時代からかかっていた橋で、東岸に藩の重臣池田勘解由の屋敷があったため、この名がつけました。橋は一ノ橋ともよばれましたが、昭和29年の国道53号の整備で、現在の橋にかけ替えられました。
3	難波町	富田町二	城の北西にあった町で、外堀に面した侍町と西の町人町に分かれていました。古くは博労町の一部でしたが、延宝四年(1676)難波町となりました。謡曲『難波』にちなんだともいわれます。
4	万町	奉還町一	山陽道に沿った岡山城下の西口にあたる町です。岡山藩は江戸後期に、東口の森下町とともに旅籠の営業を許可しました。町の西端には岡山最大の町門がありました。
5	塩見町	富田町二 野田屋町二	外堀の西岸に面した南北に細長い町人町です。古くは博労町の一部でしたが1640年代ごろ塩見町になりました。町の大部分は池田光政の母福照院が帰依した養林寺などの4つの寺が占めていました。
6	天神山	天神町	天満天神がまつられていたため、この名がつけました。江戸時代には岡山藩の支藩、鴨方池田家の屋敷があり、郡村の政治を行う郡会所も置かれていました。終戦前は岡山県庁がありました。
7	鷹匠町	弓之町	江戸時代初期につくられた侍町で鷹方の屋敷などがありました。延宝二年(1674)には鷹方役人として鷹匠頭1人、鷹匠13人、鳥見4人、餌さし11人、犬飼3人がいました。
8	桶屋町	平和町	外堀と西川の間にあった町で桶をつくる職人が多く住んでいたため町の名がついたといわれます。桶は当時の生活に欠かせないもので多くの城下町にこの名が伝わっています。町の西川沿いには侍屋敷が連なっていました。
9	柿屋町	磨屋町	山崎町口門の西にあった町人町で、柿渋を扱う柿屋が多く住み、この名になったともいわれます。渋柿をつぶして作られる柿渋は防水・防腐用の塗料として渋紙・雨具・漁網などに使われました。
10	上之町	表町一	宇喜多氏が備前福岡の商人を城下によび寄せてつくった町です。はじめ福岡町とよばれ、のちに上之町とかわりました。江戸時代この町で山陽道と美作への道がわかれていました。

11	石山	丸の内二	室町時代末に、金光宗高がこの丘に小城を構え、のちに宇喜多直家が沼城から移り、城を拡張居城としました。江戸時代には、岡山城西之丸や藩主池田家の先祖をまつる廟がありました。
12	対面所跡	丸の内二	ここは岡山城二ノ丸にあたります。対面所は、幼くして藩主となった池田忠継にかわって藩政を執った兄・池田利隆が西国大名などとの面談の場に使っていたため、このように呼ばれました。
13	岡山	丸の内二	城のある丘は岡山とよばれ、岡山の地名の起りといわれています。宇喜多秀家は旭川の川筋を付け替え、掘った土をこの丘に盛り上げて、岡山城本丸の土台をつくりました。
14	西川筋		江戸時代、西川の西岸沿いにあった南北約2キロメートルの侍町です。城下はずれの田地でしたが、しだいに侍屋敷が軒をつらね、10余りの橋も架けられました。この付近は七ノ橋の北にあたります。
15	二十日堀跡		現在の柳川筋で、明治から昭和にかけて埋められた岡山城の外堀跡です。慶長六年(1601)小早川秀秋が延長約2.5キロメートルを二十日間で完成させたため、この名がつけました。
16	下之町	表町二	宇喜多氏が備前福岡の商人を城下によび寄せてつくった町です。はじめ福岡町とよばれ、のちに下之町とかわりました。山陽道が町の中央を通り、本陣もありました。
17	常盤町	田町二	小早川秀秋は城下町の整備のため、寺々を移転しました。寺の仏像をつくらせるため京都から仏師をこのまちへよび寄せたので、仏師町とよばれました。のちに常盤町とかわりました。
18	下田町	田町二 中央町	城の南西にあった侍町です。この一帯は農地が侍屋敷になり東田町・西田町の南に位置したため下田町の名がつけました。この公園の南の道は西川につながる「菓研堀」という堀でした。
19	瓦町	中央町 南中央町	城の南西にあった町人町で瓦師が多く住んでいたのが町の名になりました。のちに瓦師は郊外に移りこの一帯は畳表を多く商う町になりました。町の中央を庭瀬往来が通り、庭瀬口ともよばれました。
20	大雲寺町	表町三	小早川秀秋が西大寺町にあった大雲寺を、この地に移したところから町名になりました。元禄(1688～1704)の頃まで庭瀬往来が町の中を通り、その後寺を中心に町屋も増えて栄えました。
21	西大寺町	表町三	宇喜多氏が城下町をつくるため、当時商業の盛んであった上道郡西大寺の商人をよび寄せてつくった町です。両替商や問屋などが多く集まり、大阪の豪商鴻地家の岡山屋敷もありました。
22	橋本町	京橋町	宇喜多氏が城下町を建設したときにつくられた町人の町です。京橋のもとにあり、江戸時代は旭川の水路と山陽道の陸路を利用する多くの問屋がありました。
23	川崎町	京橋町	室町時代には、この付近に大炊殿市と呼ばれる市がたち、にぎわっていました。江戸時代から、魚市場がありました。天明八年(1788)の問屋の株数は、城下一の町でした。
24	七軒町	南中央町	城の南西にあった侍町です。池田光政が鳥取から岡山へ来た寛永九年(1632)以前から侍屋敷七軒があったためこの名がついたといわれます。町の西川端には藩主用のいけすがありました。



(3) 祭礼・行事

①岡山神社と伊勢神社の備前岡山獅子舞太鼓唄（岡山市重要無形文化財）

岡山神社と伊勢神社の秋祭りに行われる獅子舞と太鼓唄で、その昔、池田光政は歌舞・音曲の類は禁止する施策をとっていたが、これだけは特別に許したという話が伝えられている。親子3頭の獅子で舞うもので、神前の清めの行事や悪魔払いを意味している。おはやしに、備前太鼓唄が即興的に唄われ、3頭の獅子がかみあ



ったり、じゃれたりする所作に、コウチャエコウチャエのはやしが、^{しょう}鉦、笛、太鼓でにぎやかに奉納される。獅子頭は白木作りの一本彫りで角がある頭は全国的にも珍しいという。頭は4貫目（約15kg）の重量があり、肩にかけることなく両手両腕で支えながら踊るため、他の獅子舞に見られるような派手さはなく、素朴な踊りとなっている。

②金刀比羅神社の祭り

旧丸亀町（現野田屋町）にある金刀比羅神社は讃岐の金毘羅神社を勧請したもので、社伝によると宇喜多直家による岡山開府以来の歴史を誇り、藩政期は伊勢宮、酒折宮（現：岡山神社）とともに地子御免（租税免除）の待遇を受けていた。神社がある町は、はじめ博労町といったが、のち金刀比羅神社があることから金刀比羅参りの玄関口・讃岐丸亀にちなんで丸亀町となったという。正月の9日の初縁日は終日吉兆を求める人々が集まり、霊験を受けている。また、7月9日には、夏越の祭りが行われ、茅の輪の授与がある。



③出石町のお綱祭り（岡山市重要無形文化財）

1月の第2日曜日に出石町で行われる祭り。始まりは江戸時代始め池田光政の治世の頃といわれるが定かでない。町内の若者が、荒縄で胴回り1メートル、長さ15メートル、尾が3つに裂けた「龍」（蛇の形）を作る。これを、お綱さまという。これを担いで町内を太鼓、笛、鉦などに合わせて練り歩き、一年の家内安全を祈り、岡山神社でお祓いを受ける。



ねはん
④国清寺の釈迦涅槃法要

萬歳山国清寺は、寛永9年（1632）、池田光政が鳥取から岡山へ入封した後、入れ替わって鳥取へ移った池田家（忠継—忠雄—光仲の系統）の菩提寺であった竜峰寺を改称し、祖父・輝政と父・利隆を祭る寺としたものである。この法会は毎年2月15日、釈迦入滅の当日に行われている。国清寺保存の釈迦涅槃絵は、約400年前の狩野重政入道の作といわれ、横3メートル・縦5メートル余りの掛軸。国清寺では、戦争で堂宇はじめ多くの物が焼失したが、この掛け軸はお堂の中にあり、本尊、文がら観音、阿古無地藏とともに難を逃れた。



⑤甚九郎稻荷縁日

甚九郎稻荷はオリエント美術館の西隣に参道があり、その奥に赤い鳥居と一对の狛犬（白狐）に守られた赤い社がある。かつて岡山城を築いた宇喜多秀家の家来に、佐久間甚九郎という武士がいた。甚九郎がこのお稲荷さんの白狐に助けられて九死に一生を得たことから、新しくお宮を建て替えて祀った。これが、甚九郎稻荷の起こりと言われている。7月24日の宵祭りの夕べには、子どもたちに引かれただんじりが町内を練り歩き、参道付近には露店が出され冷たい飲みものが売られている。また、甚九郎稻荷は火防神ひぶせしんとして厚く尊崇されている。



ひぎり
⑥日限地藏縁日

表町の大雲寺で毎月23日に行われている縁日である。大雲寺は天正年間の創建時には西大寺町にあった（当時は大運寺）が、小早川秀秋による外濠（二十日堀）築造時にその外側に移転した。日限とは、日数を切り願い事をすれば叶えられるということから名付けられた。様々な願い事を適えてくれるお地藏さんとして広く知られ、毎月23日の縁日には植木や衣料、菓子などの店が並び、多数の参拝者が訪れる。ことに、夏の縁日（7月）には夕涼みをかねた人たちで賑わいを見せている。



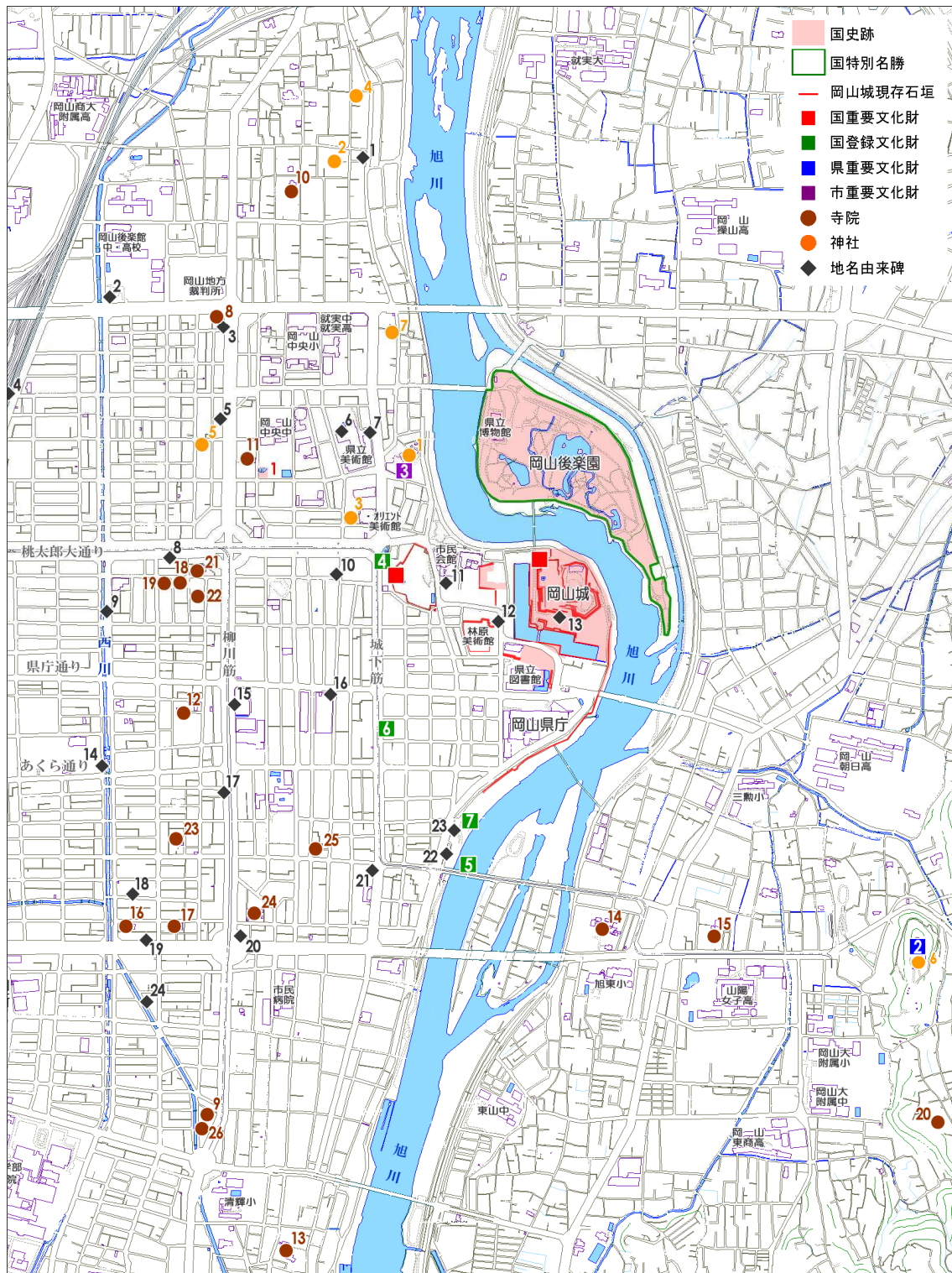


図 資 2-6 旧城下町エリア内 文化財・歴史資産位置図
 (P. 104~P. 106 の表 資 2-8~10 の番号と対応)

都心創生まちづくり構想

平成 26 年（2014 年）3 月

岡山市政策局事業政策課

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目 1 番 1 号

TEL (086) 803 - 1000 (代表)

URL <http://www.city.okayama.jp>